

SUMITOMO

住友建機 リサイクル紀行

Vol.45 友伸金属(茨城県)

茨城県南部に位置する牛久市は、東京都内からのアクセスの良さを生かして、1970年代から首都圏のベッドタウンとして発展を遂げてきた。充実した都市機能のほか田園地帯や里山などの豊かな自然が街の魅力だ。1993年に造立した牛久大仏も有名で、高さ120メートルはギネス世界記録に認定されている。牛久市内に本社を構えて金属リサイクルや解体事業などを行う友伸金属(本社||牛久市さくら台、廣瀬ひろみ社長)を訪れた。

解体工事からスクラップ加工

「何でもやる」を積み重ねる

友伸金属は鉄を中心にステンレスやアルミニウム、銅などの金属全般のリサイクル事業を展開している。鉄スクラップの月間扱い量は600〜800トほど。自社解体の発生物や持ち込みのスクラップにシャーリング加工やガス切加工を施し、製鋼原料として域内の鉄鋼メーカーに供給している。金属リサイクルはスクラップ類の加工処理にとどまらず、関東一円を対象とした解体工事や産業廃棄物の収集・運搬など幅広い。自社スタッフのスキルも強みだ。金属リサイクル事業は工場で5名、解体現場で4人の9名からなる少数精鋭で運用している。それぞれが高い技術力や抱負なノウハウを持ち、的確な作業を行う。仕事やビジネスに対する探究心も強い。まさにエキスパートの集まりだ。会社やスタッフの質が高いサービスが、売り手や買い手からの信頼につながっている。

不確実性が高い事業環境 身軽な体制で変化に対応

実直な仕事の積み重ねによって、友伸金属の経営基盤は強固なものとなった。2013年頃からは重機などの導入も進み、ユーザーの要請に幅広く応えられる体制が整えられるようになった。

社ではない。だからこそ『何でもやる』との気持ちを持っているという。自社で手掛ける解体工事も、かつて携わった案件で取引先から要望されたことが事業を始めたきっかけだった。

これら事業の歴史は決して順風満帆なものではなかった。会社は2010年に創業。当時、祐介氏は自動車専門学校に通う19歳の学生だったが、幼いころから馴染みがある先代会長に声を掛けられて会社



本社工場(茨城県牛久市)

設立とともに友伸金属に入社した。金属リサイクル業は「会社にとっても自分自身にとっても、まささらな状態でのスタートだった」という。商売を行う上での機微を会長に学びながら、二人三脚で試行錯誤を重ねていった。

しかし、入社4年目に会長が他界し、23歳の祐介氏が運営を担うことになった。「拡張した用地の地代を支払わなければならない。借金もある。会社を回すために必要な仕事を日々計算してこなしていった」と振り返る。当時は鉄の取引が少なかったこともあり、雑品などの単価が高い商材を扱いながら運転資金を工面した。商機を逃すまいと、持ち込みのドライバーにも必死に声を掛けた。

『何でもやる』という友伸金属の精神は、こうした歴史の中で築き上げられた。

収益の柱の一つとなっている。友伸金属が短期間で急速な成長を遂げたことについて、祐介氏は「幸運にも周りの方々の支えがあったことが大きかった」と感謝する。今後それぞれの事業において、ユーザーに求められるサービスを展開していく方針だ。

2010年代半ばには、介護職の経験を持つ廣瀬ひろみ社長が中心になり、生活介護事業を開始した。つくば市内に開設したデイサービス施設『なごみ』が提供する質が高いサービスは、利用者の口コミによって評判が広がり、事業は2年で軌道に乗った。6年前に始めたショートステイ型の施設は、すぐに黒字化し、現在は県内2カ所に展開中だ。介護事業は

しかし、人手不足やコスト高など、各事業を取り巻く環境は決して容易なものではない。相場商品である金属スクラップの事業環境は常に不確実性が高いものだ。このため友伸金属は必要以上の投資は行わない。大きな変化にも対応できる身軽な体制を続けるから、取引先との長期的な商売を図っていく。



株式会社友伸金属

【本社】茨城県牛久市さくら台4丁目11-1
TEL: 029-871-3909 FAX: 029-869-7606
https://www.yushin-kinzoku.co.jp/



廣瀬祐介取締役

『なごみ』が提供する質が高いサービスは、利用者の口コミによって評判が広がり、事業は2年で軌道に乗った。6年前に始めたショートステイ型の施設は、すぐに黒字化し、現在は県内2カ所に展開中だ。介護事業は

～住友建機がある風景～



SH200LC-7MF: 友伸金属で稼働する建設機械5機は全て住友建機製だ。工場ではスクラップの荷役を行うほか、解体現場には小旋回型のSH235XLC-7LMも投入して、小回りが効く作業を行っている。

会社成長を支える牛久産機

友伸金属が導入する住友建機の機械は全て牛久産機(本社=茨城県牛久市、張替正一社長)が販売・整備を手掛けている。

もともと張替社長と先代会長に親交があり、友伸金属の設立当初から同社は深い付き合いを続けてきた。機械やサービスを通して友伸金属の成長を支えてきた張替社長は「(廣瀬)祐介取締役やスタッフの人は雨の日も風の日も歯を食いしばって頑張ってきた。その姿を見ていると応援せざるにはいられなかった」と話す。



設立以来の付き合いがある牛久産機の張替社長

2013年に初号機のSH200LC-5MFを初めて導入すると、取り扱い量が

飛躍的に増加した。祐介氏は「牛久産機のサポートや住友建機の高い機械性能の貢献度は大きい。住友建機の機械はトータルバランスに優れている。夏場は猛暑が続くが、オーバーヒート対策にも満足だ」と、両社に全幅の信頼を置いている。



SH235XLC-7LM

担当: 中野 陽介

住友建機の油圧ショベルをご愛顧頂きありがとうございます。友伸金属様のご期待に応えられるよう牛久産機様とともにダブルでフォローさせていただきます!



住友建機販売株式会社 茨城支店
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡4302
Tel: 050-9001-8607 Fax: 029-292-8243